

# 木造建築改革一冊に

## シエルター(山形)木村社長が出版

住宅建築などのシエルター(山形市)の木村一義社長(65)が、著書「木造都市への挑戦―都市(まち)に森をつくる」Ⅱ写真Ⅱを出版した。震災で実証された

耐震性、14階建ての木造ビルを可能にした「燃えない木」。 「本気になって愚直に思い続ければ必ず実現する」。木村社長の経営哲学が詰まっている。

工務店の4代目として生



木村一義 社長

まれた木村社長は、勘と経験がものをいう大工仕事に疑問を持っていた。やがて家業を継ぎ、試行錯誤の末、木造でもしっかり構造計算できる工法を編み出し、さらには2時間耐火に合格する木材まで作り出した。今では国内の木造建築をリードしている。「ニーズがあるから開発したものは一つもない。経営者に必要なの

は察する力、つまり『きなくさい』と感じられるかどうかだ』という。

著書は「木造建築の最前線」「木造革命の発想現場」の2部構成。1部は激震や巨大津波に耐え、被災地に立つ自社製の木造住宅やビルという象徴的なシーンから説き起こし、工法や部材などの開発をトピックス的に紹介。2部ではそれらの発想の背景を、自らの歩みとともに振り返り、木造都市への思いを記した。

「イメージは具現化する」という木村社長の人生設計は具体的だ。「二〇一七年

売上高一〇〇億円を達成した」「二〇一八年 木構造で世界ナンバーワンになった」「二〇二〇年 取締役会長に就任した」。机の前には過去形でつづった目標が貼られている。「5年以内に、日本は近代木造建築で世界最高になる。シエルターはその中心的な役割を果たしたい」と力強く語った。

巻末には、東日本大震災で間仕切りシステムを考案し、山形市内の避難所で無償提供を申し出た建築家坂茂さんとの対談も収録。致知出版社、1620円。

都市に森をつくる

木村一義

### 木造都市への挑戦